

版画に描かれたモチーフとオンタオ儀礼

—— シン村オンタオ版画を中心に ——

鍋 田 尚 子

NABETA Naoko

はじめに

本稿ではベトナム・フエ地域のオンタオ（ông Táo 竈神）を祀る儀礼（以下、オンタオ儀礼と略称する）で使用されるシン村の版画について、モチーフから版画の特徴とフエ地域のオンタオ儀礼について考察する。本稿では、便宜上オンタオを描いた版画を、「オンタオ版画」と呼称する。

この目的のため、①シン村版画研究の重要な二つの資料分析と現地調査による現在の製作者のモチーフの認識、②ベトナムで描かれたほかの二つのオンタオ版画との比較の2点を研究課題とする。

I 先行研究と問題の所在

ベトナム・キン族の各家庭では、祖先の祭壇や台所で「オンタオ」と呼ばれる台所の神が祀られている。毎年陰暦12月23日には、オンタオを天に送る送神儀礼が行われ、現在でもベトナム・キン族の人々にとっては家族を見守る重要な神として崇拝されている。

フエ地域の送神儀礼では、1年間祭壇で祀ったオンタオ神像を廟や神聖な木の根元に捨て、天に送る儀礼が行われる。その儀礼では必ずシン村で製作されたオンタオ版画が燃やされる。送神儀礼でシン村のオンタオ版画が使用されるのは、ベトナムのなかでもフエ地域のみである。

ベトナム国内のオンタオ版画は、シン村以外に現在確認できるものとしてドンホー（Đông Hồ）版画とアンリ・オジェ（Henri Oger）編纂の版画がある。ドンホー版画は、ベトナム北部バックニン省ドンホー村⁽¹⁾で製作されている。12世紀頃にはベトナムで木版印刷が行われていたことが史書研究から確認⁽²⁾されているが、その起源はわかっていない（川上2001：53）。17-18世紀に発展したといわれるドンホー版画は、色彩鮮やかな多色重ね刷り技法が特徴の版画である（岩井1997：72）。絵柄は、神仏像や故事画、吉祥図、生活風俗絵などであり、年画や鑑賞用として飾られる。ホーチミン市の家庭でもドンホー版画の吉祥図や年画が飾られている。



図1 フエ地域の地図

オジェ編纂の版画は、フランス人アンリ・オジェが1900年代初めにベトナム人の日常や生活技術についてベトナム北部地域を調査し、ベトナム人の職人に制作を依頼し、版画によって記録した資料である（Henri Oger 2009（1909））。大量の版画のなかには、土製支脚⁽³⁾を使用して煮炊きをする風景やオンタオを描いた版画もある。しかし、二つのオンタオ版画はシン村のオンタオ版画と較べると印刷技法だけでなく描かれているモチーフにも違いがみられる。

これまで、グエン・バー・ヴァン、チュー・クアン・チューが北部ベトナム、おもにドンホー版画からベトナム民間版画について研究をしている（Nguyễn Bá Vân; Chu Quang Trứ 1984）。日本人研究者としては、川上崇が、ベトナム社会主義体制下でのドンホー村の手工芸、木版画印刷業の展開過程について論じている（川上 2001）。版画研究ではないが、ドンホー村の版画製作や歴史的展開は、シン村版画の歴史を考えるうえで参考となる重要な研究である。中国版画の研究者、田所政江と三山陵はそれぞれシン村版画を取り上げ、オンタオ版画やオンタオ儀礼についても触れている（田所 2000；2008；三山 2014）。しかし、2人の解説は中国民間版画との比較に視点を置いているため、ベトナム国内のオンタオ版画との比較はされていない。また、シン村版画研究の基本的資料が引用されておらず、ベトナムやフエ地域、シン村での詳細な調査をしていないため、オンタオの儀礼日や使用する版画、オンタオ儀礼の記述の根拠などに不明な点や誤謬がみられる。

シン村版画の研究は、フエ地域の研究者グエン・ヒュウ・トン（Nguyễn Hữu Thông）、フィン・ディン・ケット（Huỳnh Đình Kết）が行っている。グエン・ヒュウ・トンは、地域の伝統的手工芸の発展と形成の視点から文献と現地調査を基本として、シン村版画の歴史や伝統技術、村の相互補助組織などを詳細に記している（Nguyễn Hữu Thông 1994: 127-143）。フィン・ディン・ケットは、グエン・ヒュウ・トンの研究を参考にしつつ民俗学的視点からシン村版画の研究を展開している⁽⁴⁾（Huỳnh Đình Kết 2001）。また、フエ科学大学歴史学部の学生が卒業論文を執筆するにあたり、シン村の版画業を工程から原料、道具について調査している（Trần Thị Hồng Hiều 1990）。これらの研究は、伝統的な原料や製作工程に関する詳細な記述がある一方で、現在のシン村版画業の実態について多くは記されていない。また、両研究者はシン村のオンタオ版画についてそれぞれ解説をしているが、モチーフの見解に相違があり、版画製作者への聞き取りをもとに記述されたものであるかは不明である。

以上のようにベトナム民間版画の研究は少なく、現地調査に基づいたシン村版画の研究はフエ地域の研究者のみが行っている。けれども、それらはシン村版画の伝統的版画製作の工程や技術を中心とした研究であり、版画に描かれたモチーフに着目した研究や現地調査ではない。また管見の及ぶところでは、ベトナム国内のオンタオ版画を比較し、シン村オンタオ版画について述べた研究もない。

こうした背景をふまえ、本研究ではシン村オンタオ版画のモチーフを分析するために、現在シン村で製作されているオンタオ版木の調査と製作者への聞き取りを行い、版画の特徴をモチーフから整理し、なぜドンホー版画やアンリ・オジェ編纂の版画とは違うモチーフがシン村のオンタオ版画に描かれたかを考察する。具体的には、

- ①フエ地域のオンタオ儀礼の特徴を概観する。
- ②シン村で使用されているオンタオ版木の現状を述べる。版画に描かれたモチーフについて研究者の解説を整理し、現在のオンタオ版木のモチーフとの比較を行う。

- ③シン村のオンタオ版画に描かれたモチーフについて、版画製作者たちの考えを整理し、ドンホー村のオンタオ版画とアンリ・オジェ編纂のオンタオ版画に描かれたモチーフと比較する。
- ④最後にモチーフの比較と分析からシン村のオンタオ版画の特徴について考察する。描かれたモチーフからシン村オンタオ版画が儀礼版画であることを明示し、シン村のオンタオ版画の特徴が阮王朝の都が置かれたフエ地域で製作されたことにより作り上げられた可能性について述べていく。
- 本稿作成のためのシン村版画の現地調査は、2013年1月と6月、2014年8月末から9月にかけて、あわせて3週間ほど行った。

II フエ地域のオンタオとシン村の概況

陰暦12月23日、オンタオ送神儀礼はベトナム全土で行われる。北部や南部などの地域では、オンタオを天に見送るためにマー（mā）と呼ばれる紙製祭祀用品が使用されている。⁽⁵⁾ オンタオ送神儀礼用のマーは、機械印刷されたオンタオの帽子・靴・紙銭などが1セットになって売られていることが多い。しかし、フエ地域のオンタオ儀礼では現在もシン村（トゥアティエン・フエ省のひとつの小さな村）で製作されるオンタオ版画を使用している。まず、フエ地域のオンタオ儀礼について述べたい。

(1) フエ地域のオンタオ儀礼

ベトナム・キン族のあいだでは、女神1柱、男神2柱からなるオンタオが共通して祀られている。オンタオ三神の由来については、ベトナム全土に流布するオンタオ民話のなかで語られている。しかし、オンタオを祀る儀礼は地域ごとのバリエーションを生んできた。⁽⁶⁾

フエ地域は、ベトナム最後の王朝である阮王朝（1802-1945）の都が置かれていた地域である。阮王朝内閣の欽定書には、會同廟⁽⁷⁾で様々な神とともにオンタオを祀り、⁽⁸⁾フエの王宮内外の會同廟では、それぞれ毎年春秋2回、三牲と穀物を三盤に盛って祀ると記されている。⁽⁹⁾

フエには、翁寺（Chùa Ông 関帝廟）で1909年に刻印された『灶王真経』（「竈王真経」）がある（Trần Đại Vinh 1995：84）。翁寺とは、『大南一統志』承天府・祠廟、関公祠の条文に、朝廷から銅の扁額を下賜されたことが記された重要な寺である。⁽¹⁰⁾ 翁寺で刻印された經典は、朝廷でも使用され、朝廷の役人が翁寺に寄付をして經典の版木を作らせていたという。⁽¹¹⁾ それによると、灶神は12月24日子の刻に天に上がり天上の朝廷に奏上するため、民間では23日に誠心、齋戒し見送りの礼拝をしなければならない。30日に灶神が戻るときには誠心でお迎えし、朝夕に家が繁栄し神が安らかにいられるように敬礼拝をすると記されている⁽¹²⁾（Trần Đại Vinh 1995：84）。阮朝期に規準が作られ、朝廷で行われていたオンタオ儀礼が民間のそれにも影響を与え、現在もなお継承されているといえる。

一方でフエ地域の民間の人々は、家屋の主室中央に置かれた

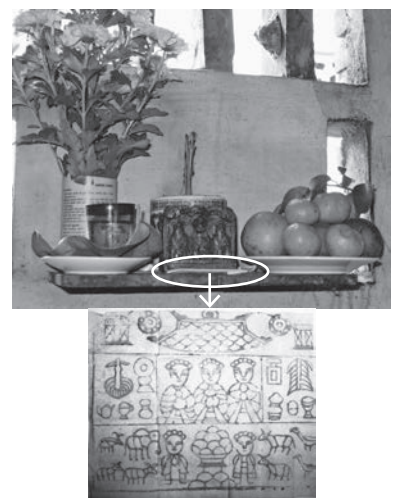


写真1 オンタオ祭壇
神像（上）と版画（下）

祭壇チャンオン (tran ông)⁽¹³⁾ でオンタオを祀り、さらに台所の小さな祭壇でもオンタオを祀っている (Trần Đại Vinh 1995 : 85)。台所、多くは昔の炉の上部に置かれたオンタオの祭壇には、三神を象った土製の小さなオンタオ神像が祀られている。神像の下にはオンタオ三神が描かれた版画が置かれている (写真 1)。オンタオ版画は祭壇で 1 年間祀る場合と祭壇で祀らずにすぐに儀礼で使用する場合があります、家ごとに異なる。オンタオ送神儀礼はベトナム全土で共通して陰暦 12 月 23 日に行われるが、フエ地域の儀礼は簡素で供物も果物とおこわであり、北部地域では一般的な供物である鶏肉は供えない。祭壇で祀られたオンタオ神像は、1 年に 1 度、この送神儀礼で新しいものに交換される。家での一連のオンタオ儀礼がおわると、人々はオンタオ神像を天に見送るための儀礼として、神聖な木の下や廟などに神像を捨てる。そのとき、必ずオンタオ版画が燃やされる。このオンタオの神像と版画はフエ地域のオンタオ儀礼の特徴であり、神像は現在もディアリン村で製作されている (鍋田 2014)。版画は以下に述べるシン村で製作されている。

(2) シン村の概況

シン村は フーヴァン (Phú Vang) 県マウタイ (Mậu Tài) 社に属し、別名「頼恩 (ライアン Lại Ân)⁽¹⁴⁾」と呼ばれる。『烏州近録』に頼恩は思栄県 67 村のなかの 1 村として記され、中南部ベトナム (ダンチョン Đàng Trong) 地方でかなり早い時期に形成された村のひとつである。シン村は字喃 (チューノム chũ nôm)⁽¹⁵⁾ での名称である。シン村の北側と西側は、香河 (フォン河 sông Hương) に接している (図 2)。



図 2 シン村の位置

頼恩村は、16 世紀中頃から商業面で豊かな場所であり (Nguyễn Hữu Thông 1994 : 154)、当時の頼恩村は、地理的にダンチョン地域の大きな商業都市、清河 (タインハー Thanh Hà) や褒栄 (バオヴィン Bao Vinh) と近かったため、商業面で影響を受けていた。しかし、頼恩の基本は他の村落と同じように農業村であった (Nguyễn Hữu Thông 1994 : 154)。

また、16 世紀の頼恩村には、化州 (ホアチャウ Hóa Châu) 地域の名所といわれる崇化寺 (スンホア寺 chùa Sùng Hóa)⁽¹⁶⁾ があり、毎年、祭礼の時期には三司⁽¹⁷⁾や衛所衙門の官吏などが揃って参拝に来ると記録されている。

グエン・ヒュウ・トンによると、生業の基本は農業であったが、近隣の商業市場の影響によりシン村にも様々な職業が形成され、経済や社会、人口の変動を経験してきた。陶磁器売買をする商人、各種手芸やカゴ編み、ノン (nón 藁で作られた円錐形の笠)、マーの製作が行われ、そのなかで最も大きな割合を占めるのが版画業であった (Nguyễn Hữu Thông 1994 : 155)。

シン村の面積は 2.5 km²、13 集落 (xóm)、三つの小村 (giáp)⁽¹⁸⁾ に分かれ、公田約 200 畝 (Nguyễn Hữu Thông 1994 : 154 : Huỳnh Đình Kết 2001 : 15)、人口は約 1600 人である (Huỳnh Đình Kết 2001 : 15)。

Ⅲ シン村版画の歴史と伝統的版画業

シン村で製作される伝統的な版画はすべて儀礼版画であり、様々な版画が製作されてきた。以下にその歴史と伝統的版画業の現状について簡単に述べたい。

(1) シン村版画の歴史

シン村の版画業の始まりについて言及する文書はみつかっていない。しかし、グエン・ヒュウ・トン⁽¹⁹⁾は、マーや儀礼版画の需要があったことは明らかであると記し (Nguyễn Hữu Thông 1994 : 156)、版画業の始まりはおそらく 15-16 世紀、『烏州近録』に記載された崇化寺の祭礼のために儀礼版画が作られたのではないかと考えている。フィン・ディン・ケットも崇化寺はシン村の信仰生活において中心的役割を担っており、供物としてシン村の儀礼版画が発展していったと記している (Huỳnh Đình Kết 2001 : 18)。オンタオ版画に描かれた 3 人の顔や髪型から 17 世紀の交易が盛んであった時代に異文化の影響を受けて製作されたのではないかと考えている。しかし、現時点では崇化寺とシン村版画の関係性は未詳である。

1975 年以前、シン村では 50 家族ほどが版画業に携わっていた⁽²¹⁾。現在、シン村で版画製作を専業で行なっているキー・ヒュウ・フック (Ky Hư Phúc) 氏 (以下、フック氏と略する) が 2013 年 6 月に語った話によると、1976-1996 年「迷信異端」が禁止されていた時期に村の多くの人々が版画業をやめていった。1996 年に版画業が再開されたときには版木を持っている人は僅かであり、版画業をする人は非常に少なくなったという。

(2) シン村の伝統的版画業⁽²²⁾

シン村の版画業は農業の閑散期に行われていた。儀礼版画のおもな種類として、平安祈願のための神像版画、家畜家禽繁盛のための動物版画、形代としての人物版画などがある。グエン・ヒュウ・トンとフィン・ディン・ケットによると、版画に使用する材料は、すべて自然界のものであった。紙 (ゾー紙) だけは昔から他の省から購入していたが、その他の染料となる植物は山林で、胡粉用の貝 (điệp) はトゥアティエン・フエ省の広い干潟で採取した。版画製作は分業制で行われ、原料収集、版木作り、胡粉作成、色の調合、印刷、彩色のグループに分けられていた。版画製作のなかで、技術が必要な版木作りが 1 番大切な作業で男性の仕事であった⁽²³⁾。貝の採取は重労働のため、若く体力のある男性たちの仕事であり、貝から胡粉を作成するのは、一晩中臼で貝を砕き多くの手間がかかる作業のため、農村全員が参加して行われた。その他、色の調合や印刷、彩色などは女性や子どもたちも手伝い作業していた (Nguyễn Hữu Thông 1994 : 156-161 : Huỳnh Đình Kết 2001 : 64-83)。

(3) 現在のシン村の版画業

① キー・ヒュウ・フック氏による版画製作

フック氏は、版画製作を専業で行い、現在シン村で版木作りのできる唯一の職人である。伝統的なシン村版画を絶やさないために、もともと版画職人であり版木作りをしていたフック氏が昔の版画の色彩の復元を含め版画の継承を担うことになった (Nguyễn Hữu Thông 1994 : 162)。現在も手工芸

で版画を製作しているが、以前のように自然界から採取した原料を使用することはほとんどない。染料では、僅かに黒色をカマドの灰と植物（モモタマナの葉）で調合しているのみである。また、フック氏は伝統的な儀礼版画だけでなく、最近は観光客向けの版画も製作している。

② シン村の人々による版画製作

現在、シン村で版画を製作する家族は非常に少ない。フック氏や村の人からの紹介により版木の所有者または版画業に関わりのある10名（家族）に2014年8月に聞き取りを行った。版木の所有者は8名（家族）である。そのうち版木を所有し実際に自分たちで版画を製作している家は5家族である。

また、版木を所有しているが自分たちでは印刷を行わず、版木を貸している家は3家族。その他自分では版木を所有せず、版木を借りて印刷をする家が1軒、儀礼で使用する冥器の紙銭や紙服用の模様を機械で印刷している家が1軒である。

機械印刷の家以外、版木の印刷はすべて手作業である。版木を所有して自分たちで製作する人々の主要な職業は農業であるため、農閑期を利用して版画を製作している。版木を借りて印刷する家では、農閑期や各版画の必要な時期に合わせて数ヶ月の期間で印刷を行っている。

現在では、以前の分業制で行われてきた伝統的版画業のなかの「版画の印刷」と「彩色」の部分を仕事としている。版画の原料はどの家も化学染料や工業紙を使用し、彼らの所有する版木のほとんどは、村の内外の彫刻を職業とするトーチャム（thợ chạm）が製作したものである。しかし、所有する版木はすべてシン村の伝統的版画である儀礼用のものであり、観光客向けの版画は製作していない。

IV シン村のオンタオ版木と版画のモチーフ

ここでは、まず現在シン村で使用されているオンタオ版木について述べる。かつて伝統的版画製作では版木作りが一番大切な作業であったが、現在の製作者が使用する版木の多くは、かつてトーチャムによって製作されたものである。次に、版画に描かれたモチーフについて、グエン・ヒュウ・トンとフィン・ディン・ケットの解説を整理する。その解説をもとに筆者がシン村で調査したオンタオ版画と比較する。

(1) シン村のオンタオ版木

フック氏によると現在、シン村には30個ほどのオンタオ版画の版木があるという。前述した版木の所有者のうち7家族がオンタオ版画の版木を所有している。版画製作者は先に言及したように、かつて版木をシン村内外に住むトーチャムに作ってもらっていた。現在は、版木の修理などはオンタオ版画の版木彫りができるフック氏に頼んでいる。フック氏によると、トーチャムは儀礼版画についての理解がないため、伝統的なオンタオ版画とは異なる左右の配置や間違ったモチーフを描いた版木を製作してきたという。フック氏は儀礼版画にはモチーフや配置が重要であると考え、7年ほど前から間違った版木をみつけたら処分し、正しい版木に交換している。筆者がシン村で確認できたオンタオ版画は以下の3種類である（写真2）。

①の版画はもっとも多く流通している種類のものであり、送神儀礼の前になるとオンタオ神像とセ

ットとして市場などで売られている。このオンタオ版画には中段の左右のモチーフの配置が逆になった2種類の版画がある。上の版木と下の印刷された版画では左右の配置が同じであり、印刷すると逆になるのがわかる。フック氏は①の版木は正しいが、下のオンタオ版画は左右の配置が逆であり、間違った版木で印刷されたものであるという。②はフック氏が製作した版木とそのオンタオ版画である。①の版画と較べると左右の配置が逆になっているのがわかる。③は一番下にガスボンベが描かれている。フエ地域では1980年代中頃から1990年代にかけてガスコンロが使用され始めたため、ガスボンベが描かれた版画は1990年代以降の新しいモチーフだと思われる。フック氏は、オンタオは炉にいる神でありガスボンベが描かれるのは間違っているという。①の版画（下）の版木や③の版木をみつけると回収し、正しいオンタオ版木に交換している。今ではトーチャムが製作した間違った版木はほとんどないと述べたが、筆者は2014年の調査で現在でも①の版木を所有する2名と③の版木所有者1名に会って聞き取りを行っている。



① オンタオ版木と版画（左）

② オンタオ版木と版画（中央）

③ オンタオ版木と版画（右）

写真2 オンタオ版画

(2) 研究者によるモチーフ解説

2人の研究者、グエン・ヒュウ・トンとフィン・ディン・ケットが記した解説は以下のとおりである（図3）。2人は同じ配置、同じモチーフの版画を解説していると考えられるが、左右の表現については異なることに注意したい。グエン・ヒュウ・トンは版画のなかから外に向けて（オンタオ三神を中心に）記し、フィン・ディン・ケットは外から版画を見たときの左と右で記している。

① グエン・ヒュウ・トンの解説（Nguyễn Hữu Thông 1994：163-164）

版画の中心には女性1人と男性2人の3人の人物が描かれる。3人は温和で楽しそうな顔をしてい

る。家は柱間1間と二つの底、屋根は瓦で覆われ、別棟と一斉に咲いた花が左右対称で描かれている。

道具、事物、動物が三層に分かれて配置されており、それぞれのモチーフが個別に意味をもつ。

左側（男性）は、武器、男性の生活（働く）道具であり陽の原理を表す。そのため、丸いもの：石灰の瓶、酒を入れる瓢箪、扇が描かれる。右側（女性）は陰の原理を表象し、四角いもの：四角の鏡、四角の羽毛扇、化粧をするための紅と白粉が描かれる。左右の配置は天円地方であり、円満や平和、人々の発展への希望を表している。

下層には、真ん中に山盛りの果物があり、両脇に下男下女が立つ。その両側には豚、馬、犬、山羊、水牛、鶏、アヒルなどがいる。果物は豊作を、動物は家畜の繁殖を象徴している。

② フィン・ディン・ケットの解説（Huỳnh Đình Két 2001：87-88）

オンタオ版画は、紙を二分し空間を二つに分ける。その空間は二つの世界を表す。

上部の空間には、瓦葺きの屋根をもつ口字形の家に灶府神君三位が配置されている。三位は正装し髪を巻いている。3位の右に集められた5品は、調理道具：炭の焔炉、扇または玉ねぎ、やかん、すり鉢、蓋付き瓶である。左に集められた5品は、生活道具：菓子型または小麦粉をふるう杵、野菜、



	グエン・ヒュウ・トン			フィン・ディン・ケット		
空間	三層			空間を二分 二つの世界		
上段	瓦屋根、1間底二つ、両側：別棟と満開の花			瓦屋根、口の字形の家		
中段	右側(女性) bên phải(nữ hữu)	中央	左側(男性) bên trái(nam tả)	左側 tả vu	中央	右側 hữu vu
	陰(四角)地 羽毛の扇 四角の鏡 紅・白粉	女1人男2人 温和で楽しい顔	陽(円)天 武器・生活具 扇 瓢箪(酒) 石灰瓶	生活道具 お菓子の型 野菜 つまみ付き瓶 足付グラス 円形のもの	灶府神君3位 正装(朝服) 丸めた髪	調理道具 炭の焔炉 扇(玉葱) やかん 蓋付き瓶 すり鉢
下段	右側	中央	左側	左側	中央	右側
	豚、犬、 山羊、水牛、 牛、鶏、 アヒル	山盛りの果物 下男・下女	豚、犬、 山羊、水牛、 牛、鶏、 アヒル	水牛 子牛(犬) アヒル 鶏	もち米の菓子 (五穀) 下男・下女	象 豚 山羊 ロバ(?)

図3 グエン・ヒュウ・トン、フィン・ディン・ケット オンタオ版画の解説

つまみ付き瓶、円形のもの、足付きグラスである。

下部の空間は、真ん中の盆にご飯（おこわ）が盛られている。その両側に男女が1人ずついる。左側には水牛、子牛（または犬）、アヒル、鶏、右側に象、豚、山羊とロバ。

版画の全景は満ち足りた豊かさを表している。神の世界と民間の世界の調和と親密さを描写する。

以上が、研究者によるオンタオ版画の解説である。グエン・ヒュウ・トンは、解説に使用したオンタオ版画を提示していないが、1994年という年と解説内容を考えるとおそらく最も流通している版画（写真2①の版本）であろう。2人の解説では、まず空間区分に相違がみられる。フィン・ディン・ケットが区分した二つの世界とは、神と民間の世界を指していると思われるが、両研究者とも空間区分についての詳しい説明はない。

上段に描かれたモチーフでは、両研究者が記しているように瓦屋根がはっきり描かれている。しかし、屋根の上に描かれた宝珠については触れていない。多くは寺院や廟、祠堂などの屋根に置かれる宝珠が、なぜ家の屋根にも置かれているかについての解説はされていない。

中段の中央に描かれた3人の人物は2人の研究者ともオンタオと記している。フィン・ディン・ケットは、特にオンタオの髪型、表情、服装に注目している。ベトナム人や中国人は髪を丸めていないこと、服装や表情もベトナムとは異なるため、描かれたオンタオには17世紀のフエ地域で行われた交易によりタインハー港に訪れた外国人の姿が影響していると考えている。⁽²⁴⁾

オンタオの左右に描かれたモチーフと左右の配置について2人の解説には違いがみられる。グエン・ヒュウ・トンは区切られた空間の配置には思想や観念的な意味があるという。左右の配置が男右女左（nam tả nữ hữu）として、「天円地方」と陰一陽・女一男・四角一丸を組み合わせで描いているとすると、オンタオ版画は陰陽思想や「天円地方」の宇宙観について知識のある人物によって描かれた版画となる。フエ地域の「天円地方」の思想に基づいた建物は、阮王朝時代に建設されたナムザオ（Đàn Nam xiao）と呼ばれる南郊壇（天壇）がある。三成からなる天壇の最上壇（第一成）は円形をして天を象り、第二成の方壇は地を顕し、阮王朝の皇帝が国家の繁栄と王朝の安寧のために供儀をする場所として設けられた（綿貫ほか2006：377）。そこでは、毎年春の三吉日に儀礼が行われていた。⁽²⁵⁾ また、フエ王宮には、南面して前と左を陽（公的・男性的・優）、後と右を陰（私的・女性的・劣）という儒教や陰陽思想の影響をうけた配置構成の観念的体系が明確に現れている（中川ほか1996：68）。阮王朝との関連も考えられるかもしれない。フィン・ディン・ケットはオンタオ版画的なかに陰陽や「天円地方」が描かれるという考えには同意していない。

次に、両者のオンタオの左右に描かれた各モチーフについてみると、フィン・ディン・ケットは、農民の生活に密接した食や調理に関するものとして捉えている。それについて、シン村の農民により製作された版画には、17世紀当時の人々が台所空間に望むもの・豊かさの象徴となるものが描かれていると考えたと述べている。⁽²⁶⁾ 一方でグエン・ヒュウ・トンは生活道具であるとしている。その理由について、版画に描かれているものは昔からある基本的なものであり、オンタオ三神が使用するものまたは三神への供物であると述べている。⁽²⁷⁾ 農民が実際に使用するものとオンタオへの供物とで相違がある。

下段に描かれたモチーフの解説はほぼ共通している。男女の従者と動物、盆に盛られた果物とお

こわの違いはあるが、農業の成果としてみれば共通している。しかし、動物には家畜以外の象なども描かれているが、その理由については両者とも述べていない。

2人の研究者によるモチーフの解説は細かい部分の相違は多い。空間区分や中段の左右のモチーフが農民の身近な生活に関連するものであるかオンタオへの供物であるかを明らかにすることは難しい。しかし、版画全体としてみれば両研究者は豊かさや発展、希望と述べていることは共通している。

(3) 現在シン村で製作されているオンタオ版画のモチーフ

研究者の解説をもとに、現在フェ地域で使用されている上記の3種類のシン村のオンタオ版画を比較し、もう少しみていきたい(図4)。

全体をみると、①と②の版画のモチーフは共通しているが、③はガスボンベが描かれている以外にもモチーフの数の違いや描き方に大きな違いがみられる。ガスボンベの版画は、前述したように


	①オンタオ版画 (最も多く流通)	②オンタオ版画 (フック氏所有)	③オンタオ版画 (ガスコンロ)
上 屋 段 根	 瓦屋根 屋根の中央上:宝珠 左右対称:2つの円形と四角	 瓦屋根 屋根の中央上:宝珠 左右対称:2つの(花と四角建物	 瓦屋根 屋根の中央上:宝珠 左右対称:2つのもの
中 段 オ ン タ オ 三 神	 三神 丸めた髪 顔の描き方:目と鼻に特徴	 三神 丸めた髪 頭に被り物? 顔の描き方:目	 三神 冠? 左右の柱 三神の下:壇 顔の描き方:口元に特徴 笑顔
オ ン タ オ 三 神 の 左 右 モ テ ィ ー フ	 左右 各5品 上2品(大)、下3品(小)	 左右 各5品 上2品(大)、下3品(小)	 左右 各4品 棚にかれた品物 上2品 下2品
下 段 中 央	 2人 左右の服 四角とひし形 果物(おこわ?) 器のなか11個 下5個	 2人 左右の服 四角と楕円 果物(おこわ?) 器のなか14個 下5個	 ガスボンベ 2本
下 段 物 両 側	 左右 4匹(頭)ずつ 左:二足(左)、四つ足(右) 右:四つ足	 左右 4匹(頭)ずつ 左:二足(下)、四つ足(上) 右:四つ足	 左右 1匹ずつ 左:不明(花?) 右:動物?

図4 シン村の3種類のオンタオ版画

1990年代以降に製作されたと推定される。「迷信異端」が禁止され村の多くの人々が版画業をやめ、版本製作ができる人がいなくなったことで、村のなかで僅かに版画業を続けていた人たちが版本製作をトーチャムに依頼したと考えられる。この版画はガスボンベが描かれているだけでなく、版本を使用する製作者の意識をはじめオンタオ崇拜に関していくつかの問題を含んでいると考えられるため、追加調査をして別の機会に取り上げて考えていきたい。ここではいくつかの項目に分けて版画のモチーフをみていく。

• 空間区分

①②の版画には、直線が引かれており明らかに空間が区分されている。水平の線と、中段は中央のオンタオ三神の左右に垂直に線が引かれている。①の版画は水平に2本の線が引かれ上段・中段・下段の区分がされているように見える。③の版画では空間区分に違いがみられる。オンタオが中央に置かれているが、左右の供物は四つに区分されているように見える。また直線による区分はない。

• 瓦屋根

三つの版画に描かれている。屋根の中央に宝珠も描かれているが、かたちは三つとも異なっている。屋根の両側対称に、①②のモチーフには円形と四角の建物が描かれている。②の円形はグエン・ヒュウ・トンが記したように花に見える。瓦葺きの屋根を描くことが一つの要点になっていると考えられる。

• オンタオ三神

中央に三神が描かれていることは共通している。①と②は丸めた髪が描かれている。しかし、②は額の上に線が引かれ頭の左右からリボンのようなものがみえるため、鉢巻きまたは被りものをしているように見える。服装は①②ともほぼ同じである。③は冠と服装に違いがみられる。また台座とオンタオ三神の両側に対の柱が描かれている。

• 表情

グエン・ヒュウ・トンは温和な表情と記しているが、3種類の版画に描かれたオンタオの表情は異なる。①と③は目元が少し似ているが、②の表情はシンプルである。特に目の描き方に違いがみられる。②③には笑顔がみえる。下の従者2人は②は微笑んでいるように見えるが、①には笑顔はない。

• 供物

①と②は同じ数の供物が描かれている。供物の描き方に細かい部分に違いがみられるが、形は類似しているためおそらく同じものであろうと思われる。形は、左右の上部に描かれた二つずつの供物は四角いものと丸いもので区分がされている。下の小さな三つずつの供物は、形の区分はみられない。③は数も描かれているものも異なっている。

• 動物

①②の版画には、下段の左右に動物が描かれている。描き方の違いは多少みられるが、共通した種類の動物を描いているように見える。①と②の違いとして、①は二足の動物が上下に描かれ、②は下段に2匹並んで描かれている。すべての動物を特定できないが、家畜だけでなく象などの家畜以外の動物も描かれていることがわかる。

• 数

2人の研究者は数については記していない。版画に描かれたモチーフの数をみていきたい。

上段は、①②③とも瓦屋根の脇に左右対称に①②は二つずつ、③は一つずつ描かれている。

中段の中央はオンタオ三神が描かれている。丸めた髪の数に違いがある。①は6個ずつであるのに対し、②は5個ずつである。しかし、①とほぼ同じモチーフの版本に頭部の丸めた髪の数に5個のものもみられる（図3）。三神の左右のモチーフは、①②それぞれ上2個、下3個の5個ずつ描かれている。

下段は、①②には中央には従者2人、2人のあいだに山盛りの果物（おこわ）が描かれている。①は器のなかに11個、下に5個、②は器のなかに14個、下に5個置かれている。オンタオの民話のなかに従者が登場する話があるが、そこでは従者は1人しか登場しない。⁽²⁸⁾ 両側の動物はそれぞれ4匹（頭）ずつ描かれている。

モチーフの数をみてきたが、ベトナム人の数の概念について大西は、日常生活において奇数3は忌まれ、偶数4が安心感のある数として好まれるが、3という奇数は、信仰生活では常に用いられている。3を吉数とするのは中国の影響でありベトナムの民間信仰のなかで18世紀頃から神の数が3から4に変化すると述べている（大西 2009: 14）。オンタオ版画のなかで3という数をみると、オンタオ三神のみである。ここでは、偶数と奇数の関係からみてみたい。上段は一つの瓦屋根と左右の円形と四角のモチーフ、奇数と偶数が混合している。中段にはオンタオ三神と左右に五つずつの奇数のモチーフが描かれている。下段には2人の従者、果物は上下2ヶ所、左右それぞれの4匹（頭）の動物と、偶数で描かれている。ここから、中段は神の空間であり奇数のモチーフ、下段は人々の生活空間として偶数のモチーフと考えることはできるだろうか。オンタオの丸めた髪の数やオンタオ三神の左右のモチーフを上部2、下部3に区分していること、果物（おこわ）の数などはどのようにみることができるだろうか。

以上、現在シン村で製作されている版本について述べ、研究者によるモチーフの解説を整理し、それをもとに現在のシン村版画で使用されている3種類の版本のモチーフを比較した。次にそれぞれのモチーフについて製作者がどのように考えているのかを述べていく。

V シン村のオンタオ版画に描かれたモチーフと特徴

フック氏によると、オンタオ版画に描かれているモチーフは版画業開始から変わらないという。しかし、現時点でシン村版画の起源も定かではなく古いオンタオの版本や資料もないため、モチーフの変化に関しては未詳である。ここでは、現在使用されているオンタオ版画に描かれたモチーフをみていきたい。フック氏と現在も版画を製作している5人のオンタオ版画のモチーフについては以下のとおりである。フック氏への聞き取りは2013年6月と2014年8月、5名の版画製作者には2014年8月に行った。

① キー・ヒュウ・フック氏

オンタオ版画のモチーフはオンタオ版画を作るときから同じであるという。版本を作るために版画は必ず1枚保管し、版本にその版画を貼り彫っていく。そのため、モチーフは昔から同じである

という。

モチーフの配置は、「男左、女右」の考えで描かれる。版画のなかのオンタオから外に向かって左右となる。版画は3段に分かれ、上段には、台所の屋根が描かれ、その両脇には花。花の名前は忘れたという。両側にあるのは、昔の家で飾られていたものである。中段の中央にはオンタオ三神、左（版画の右側）は男性のもの：扇、太鼓、水を入れる瓶、グラス、酒瓶。右（版画の左側）には、女性のもの：扇、鏡、香水瓶、皿、石灰瓶。下段の中央には果物、その両脇にいる2人のうち左（版画の右側）は、動物の世話と家の掃除をする役割をもつ土公（トーコン Thổ công）、右（版画の左側）は、家を守る土地（トーディア Thổ địa）である。その両側には動物たちが描かれる（図5）。

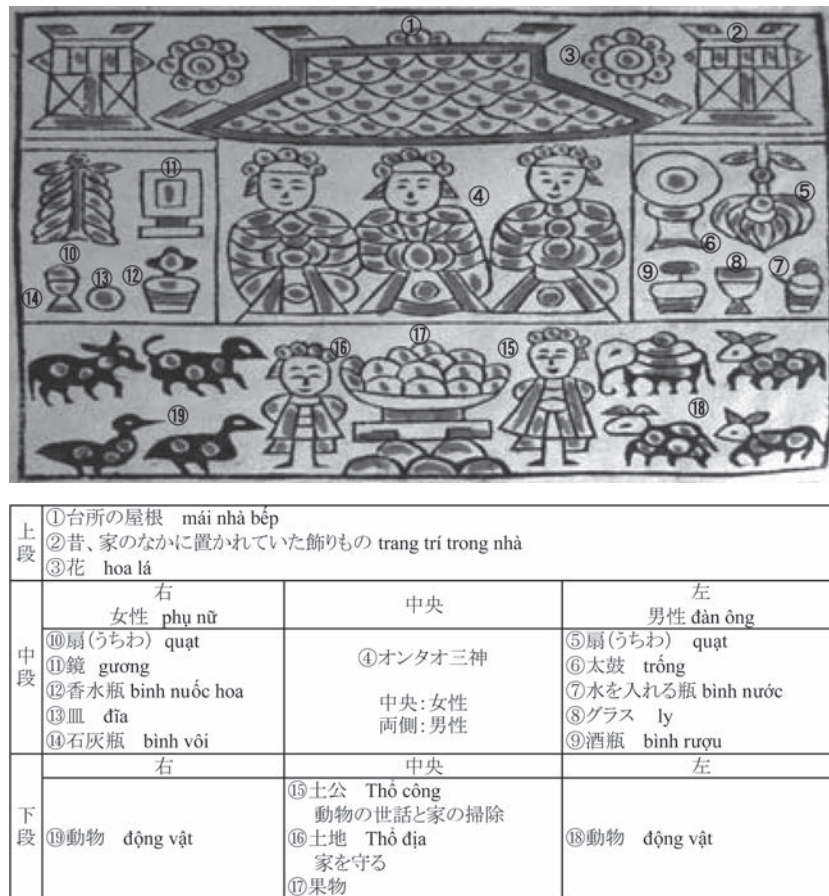


図5 キー・ヒュウ・フック氏による版画の解説

② 44歳女性

モチーフは、家族のなかで使うもの。茶碗やカップ、鏡など。下段にいる2人は、玄関の番人。

③ 57歳女性 夫の家族は4代前から版画を製作

結婚してシン村に来て30年ほど版画業に携わっているが、自分はほかの村から来たのでオンタオ版画の意味やモチーフについては全然わからない。オンタオに願うことは、家族の健康、安全、平安である。

④ 73歳女性 両親と祖父母も版画を製作、夫の家族は版画製作6代目

オンタオ版画のモチーフは、花瓶、バナナ、ランプ（大小）、山羊、中央にいるのは、3人のおばあさん。下段に描かれているのは、ガスボンベ（初めの説明では、2人が座るイスと答えたが、ほかの人からの指摘で言い直した）。ガスボンベの版画は昔からあると思うが、間違った版画かどうかはわからない。

⑤ 63歳男性 両親が版画製作、祖父が版画業をしていたかは不明

モチーフは、家の屋根と家族の人が生活に使うものや道具である。下段の動物は、豚や鶏などの家畜と象や馬などの森の動物を区別し、供物とその脇の2人は兵士であり下僕である。昔と今のオンタオ版画の違いは、大きさが8割程小さくなり色が少し変わったが、モチーフは変わらない。

オンタオ版画は、オンタオ神像を天に見送る儀礼のあとに燃やす。燃やす理由は、オンタオの命（神像）の交換のためである。オンタオは自分たち家族の台所を守り、家族の火を守る役割がある。家族の火を守るとは、家族の温かい部分を守ることを意味する。オンタオに願うことは、健康、商売、発展である。

⑥ 70歳男性 版画業は2代目

モチーフは、上段に家の屋根と中段には東側に花瓶、西側に果物である。版画のなかには五つの果物と水牛、アヒル、鶏などの動物が描かれるが、オンタオのモチーフは変わらない。型の大きさが小さくなっただけである。

以上が版木を所有し版画を製作している人たちのモチーフ解説である。まず、解説のまえにキー・ヒュウ・フック氏が型彫りしたオンタオ版画をみてみたい。現在市場などで最も多く売られている版画（写真2①）と較べると、前述したように中央のオンタオの顔や表情に違いがみられる。また瓦屋根の上の宝珠、動物、オンタオの左右のモチーフも少しずつ異なっていることがわかる。しかし、フック氏のモチーフ解説はグエン・ヒュウ・トンと重なる部分が多く、フック氏への聞き取りから細部の違いをあえて意識して作成した様子はないため、描かれたモチーフの細部の違いに特別な意味があるとは考えにくい。

次にフック氏のモチーフ解説であるが、グエン・ヒュウ・トンの解説と重複しており、おそらくオンタオ版画のモチーフについて2人のあいだで会話がなされたと思われる。細かい部分では、フック氏は中段の左右にある石灰瓶の配置を、グエン・ヒュウ・トンとは異なって、女性のものとして位置づけている。石灰瓶には、石灰瓶の翁（オンビンヴォイ Ông bình vôi）という説話があり、男性の敬称がつけられている。実際の形も丸いため、男性の生活道具と考えたほうがよさそうである。下段の2人についてフック氏は、「土公」と「土地」と説明している。しかし、「土公」と「土地」は神であり、20世紀半ばに新たにオンタオ三神の役割として「土公」「土地」「土圪」が登場しており、民話にも描かれるようになった（鍋田 2015：40-41）。おそらく、フック氏の述べた「土公」「土地」は、その民話の影響ではないかと考える。

フック氏以外の製作者は、オンタオ版画のモチーフの詳しい解説はしていない。かれらは一つ一つのモチーフを意識して理解してはいない。しかし、全体として版画に描かれたモチーフが自分

たちの家屋や家族が生活のなかで使用するものであるとして認識していることはわかる。④の女性は両親が版画業をしており、子どもの頃から携わっているため、版画製作の経験は長い。しかし、現在ガスボンベが描かれた版木を使用し、ほかの人に指摘されるまで自分ではガスボンベが描かれていることに気付いていなかった。さらに、ガスボンベが間違ったモチーフなのかはわからない、ガスボンベの版木は昔からあると思うと述べている。⑤の男性は、下段に描かれた動物は、家畜と森の動物（象・馬など）に区別されると述べている。象と馬は、阮王朝時代に皇帝の御馬・御象として皇城内⁽²⁹⁾で飼われていた。阮王朝が飼育していた動物として描いた可能性が考えられる。また、かれらは版画の原料を採りに森に入っている。その森にいる動物と考えているのか、今回の聞き取りでは明らかにできていない。

VI ドンホー版画、アンリ・オジェ編纂の版画との比較

① ドンホー版画

北部ドンホー村のドンホー版画に描かれるオンタオ（写真3）は、多色刷りの鮮やかな版画である。中央にオンタオ三神が座っている。真ん中は女性である。上部には「灶君位」と書かれている。左右には対聯があり、版画の左側は「年増富貴」、右側は不明である。オンタオの前には三つの供物：飲みもの（水または酒）と魚と果物が捧げられている。供物の少し下の両端に、2人の従者が手に何かものを抱えて立っている。その下には動物：豚、牛、鶏、山羊？ と、真ん中には三つの道具（ランプ（？）、竈（？）、もうひとつは不明）が描かれている。左下には杵と臼が描かれ、右下は不明である。

ドンホーのオンタオ版画は、従者2人の間に引かれた線を境に、上段はオンタオの暮らす世界、下段は人々の暮らす世界と二つの世界（空間）に分かれているように見える。下段の動物は家畜であり、家で使われる道具が描かれている。

シン村のオンタオ版画は、ドンホー版画と較べるとディテールが非常にシンプルであることがわかる。モチーフをみていくと、ドンホー版画には、瓦屋根はなくオンタオの左右に道具が描かれていない。下段の山積みになされた果物（おこわ）もなく動物の数は半分である。一方、シン村版画には、対聯の文字や「灶君位」の漢字は書かれていない。

② アンリ・オジェ編纂のオンタオ版画

右の写真は、アンリ・オジェ編纂のオンタオ版画（写真



写真3 ドンホー版画



写真4 アンリ・オジェの版画

4) である。アンリ・オジェは1908-1909年にかけて約20ヶ月間、ベトナム北部地域の人々の生活を調査し、ベトナム人の日常や生活技術について版画によって記録をしていた。これらの版画は、ベトナム人の絵師に構図を描かせ、儒学者に漢喃（漢字と字喃）で画賛を書かせ、そのうえで版画職人⁽³⁰⁾に依頼して完成させた版画である（菅野 2004：250）。アンリ・オジェが編纂した版画のなかにオンタオを描いた版画が数点ある。そのうちの一つである。

屋根のついた建物のなかに3人のオンタオが座っている。真ん中は女性である。屋根には「灶君位」と書かれている。オンタオの両側には対聯があり、版画の右に「年又増富貴（年々富貴を増し）」左に「日又壽榮華（日々榮華を壽（ことほ）ぐ）」と書かれている。建物の両側には笹が描かれている。オンタオが座っている前の庭には、おそらく生活で使用すると思われる道具が置かれ、一番手前には動物：水牛、犬、鶏、豚が描かれている。

版画のモチーフとして、対聯や「灶君位」の文字や動物はドンホー版画と共通している。しかし、かなり庶民的な雰囲気を醸し出している。オンタオの空間と人々の生活空間が分断されず、一つの空間として描かれている。シン村のオンタオ版画と比較すると、屋根の描き方に違いがみられる。ドンホー版画と同様にオンタオの左右には道具がなく、動物の数が異なっている。また、アンリ・オジェ編纂の版画には従者2人が描かれていない。

小結——シン村のオンタオ版画に描かれたモチーフ——

ここではオンタオ版画のモチーフについて、研究者と製作者のモチーフ解説とシン村版画以外の二つの版画：ドンホー版画とアンリ・オジェの版画との比較から、若干の考察を試みたい。

まず、ドンホー版画とアンリ・オジェ編纂の版画からシン村オンタオ版画の特徴をみていきたい。ドンホーとアンリ・オジェ編纂の版画は描き方に相違はあるが、2つの版画の特徴は、オンタオのいる世界（空間）を描いている点である。そのためそれぞれ版画から物語を想像することができる。一方でシン村のオンタオ版画は、空間をはっきり直線で区分して中央にオンタオを配し、そのまわりに様々なモチーフが詰め込まれている。上段には屋根と屋根瓦、両側の建物、中段にはオンタオとその左右に描かれた道具類、下段には2人の従者と多くの動物たちと山盛りの果物（おこわ）。このシン村のオンタオ版画から物語を想像することは難しい。そこにこそ、シン村版画が儀礼のための版画である大きな理由があると考えられる。

では、儀礼のためのオンタオ版画に描かれたモチーフは何か。上記でグエン・ヒュウ・トンとフィン・ディン・ケット、キー・ヒュウ・フック氏の解説を述べたが、今のところモチーフを実証できる資料や根拠はなく、解説内容を判断するのは難しい。また、現在の版画製作者も一つ一つのモチーフについては理解していないため、現時点では各モチーフが何を表しているのか解明していくことは困難である。しかし、製作者の話を総合すると、シン村のオンタオ版画には農民の家屋や生活に関わるものが描かれていると考えることができる。

人々が家庭を守る重要な神としてオンタオを崇拜し、家族の健康や平安を祈願することから考えても版画に詰め込まれたモチーフは、2人の研究者が述べるように豊かさ、成果や発展、希望であることは間違いないであろう。特にフエ地域は、フエ形成の歴史や厳しい生活環境により他地域とは異

なる、守護神である一方で災異神としても観念され祀られるオンタオ崇拜を形成してきた（鍋田2015）。フエ地域の送神儀礼では、オンタオへの供物は他地域に較べても非常に簡素である。人々のオンタオに対する畏怖と守護の側面から考えると、中段のモチーフは実際に供えられない豊かな品々を供物として描いたと解釈できる。または、人々が目にする機会はあるにしても農村ではほとんどみられない瓦葺きの屋根や別棟、生活に関連する様々な道具を豊かな暮らしの象徴としてオンタオに願ひ描いたとも考えられる。また下段では、実際の生活における五穀豊穡と家畜の繁殖を願ひとして、動物や山盛りの食べ物を描いたと思われる。モチーフは、シン村が商業活動に関わっていたことで農業村でありながら商業をとおして様々なものや情報が入り、それが影響して描かれた可能性も考えられる。シン村オンタオ版画の特徴の一つは、ドンホー版画やオジェ編纂のオンタオ版画のようにオンタオの世界を描くのではなく、版画全体が自分たちの暮らしと結びつく世界であり、それぞれのモチーフが願ひとして描かれた儀礼版画であるといえる。

また、空間区分をモチーフの数からみていくと、研究者や版画製作者は誰も数について指摘してはいないが、中段には奇数のモチーフが描かれ、下段には偶数のモチーフが描かれていることがわかる。特に下段は、オンタオの昔話には1人しか登場しない従者を2人にし、果物（おこわ）を上下に描き、あえて2という偶数で描いたとも考えられる。空間を区分し、そのなかを偶数と奇数で区別することで、オンタオの空間と実際の生活空間との区分を表したと考えることも可能ではないか。

さらにモチーフからみえてくるシン村オンタオ版画の特徴としては、阮王朝の影響がある。空間を直線で区分して表しているのは、前述したようにドンホー版画やオジェ編纂のオンタオ版画との大きな違いであり、シン村のオンタオ版画の特徴である。グエン・ヒュウ・トンの述べるように空間区分には意味があり、「男左女右」の陰陽思想や「天円地方」の宇宙観が表されているとすれば、それは阮王朝の皇帝が儀礼を行う南郊壇や王宮の配置で示した陰陽の思想や観念が影響していると考えられる。フエの民間のオンタオ儀礼が阮王朝の影響を受けていたことは、翁寺の「灶王真経」からも明らかである。フエ地域の民間のオンタオ儀礼は、宮廷での儀礼の日時に従い、いつでも人々は宮廷儀礼より控えめな標準的な儀礼を行うことを心がけていた⁽³¹⁾という。フエ地域の人々が常に宮廷の人々や祭礼を意識していたことがうかがえる。それはまた、人々の生活や文化が、阮王朝の影響を受けて作り上げられてきたということができる。阮王朝の陰陽思想や宇宙観が祭礼をとおして民間の人々に伝わっていた可能性、その影響がシン村のオンタオ版画に描かれた可能性があるのではないか。版画に描かれた動物もドンホー版画やオジェ編纂の版画と異なり、森の動物が加えられている。森に住む動物として馬と象を描いたことと、王宮で飼育されていた動物が馬と象であることは偶然ではないように思える。

シン村オンタオ版画の特徴は、空間を明確に区分していることである。空間に詰め込まれたモチーフからも儀礼版画であるといえる。そこには豊かさへの憧憬と願ひ、現実的な五穀豊穡と家畜家禽の繁殖の願ひが込められている。もう一つの大きな特徴として、オンタオ版画の空間区分や配置には、阮王朝の陰陽思想や観念が影響していると考えられよう。

おわりに

本研究では、フエ地域のオンタオ儀礼で使用されるシン村オンタオ版画について、版画に描かれたモチーフを中心にオンタオ版画の特徴を整理し、ドンホー版画やアンリ・オジェ編纂のオンタオ版画とは異なるシン村オンタオ版画が作り出された背景について考察した。

シン村版画業の始まりについて2人の研究者は15-17世紀と考えているが、明らかにはなっていない。現在わかっているのは、1975年以前には約50家族いた版画の製作者が、今回の調査で確認できたのはフック氏を含めて僅か10家族、そのうち版木を所有しているのは9家族、オンタオ版木の所有者は8家族であるということである。また現在の製作者が4代前、6代前から版画製作をしているという話から考えると、150-200年前にはシン村で版画業が行われていたと考えられる。

現在、シン村には3種類のオンタオ版画がある。そのなかには、トーチャムによって製作されたガスボンベが描かれた版木があり、また描かれたモチーフは同じだが左右の配置が逆になっている版木がある。シン村で唯一版木製作をするキー・ヒュウ・フック氏は、伝統的な儀礼版画としてのオンタオ版画の意味を重視し、正しい版木を使用する重要性を述べているが、正しい版木の根拠や「男左女右」の配置などは、現時点では明らかにできていない。また、Ⅲ（2）で述べたように、一般に多く流通している版木とフック氏のモチーフに異なっている箇所があり、ほかの製作者たちは正しいオンタオ版木を使用する意味を意識している様子はみられないなどの現状がある。

オンタオ版画のモチーフについては、現時点ではまだ不明な点が多く、モチーフ一つ一つを読み解いていくことは難しい。しかし、研究者の解説や製作者への聞き取りを整理し、ドンホー版画やオジェ編纂の版画と比較することで、モチーフからシン村オンタオ版画が儀礼版画であることが明示できた。また、シン村オンタオ版画の特徴として、空間を明確に区分していることも明らかになった。版画の空間は直線で区切られ、そのなかに詰め込まれたモチーフは、中央に配置された三神以外は、人々の家屋と暮らしに関するものが描かれており、シン村オンタオ版画に込めた人々の願いとみることができる。空間区分はモチーフの数からみてもオンタオの空間と人々の生活空間を示している可能性も指摘した。

シン村オンタオ版画の特徴として阮王朝の影響について考察した。版画の空間区分が、「男左女右」「天円地方」の思想や宇宙観によるという明確な根拠はない。しかし、フエ地域の人々の生活に阮王朝の存在が強く関わっていることは、翁寺で刻印された「竈王真経」からも明らかである。朝廷でのオンタオ儀礼の影響を受け、また人々は必ず宮廷の儀礼より控えめな儀礼を心がけていたという話にも表れている。フエ地域の人々が宮廷の祭礼に接し影響を受けながら暮らしてきたことが、版画に反映された可能性は十分に考えられる。ドンホー版画やオジェが調査した北部地域とは異なり、阮王朝の都が置かれたフエ地域で製作されたことが、シン村オンタオ版画の大きな特徴を作り上げたといえる。

フエ地域の人々は、フエ形成の歴史や厳しい生活環境により他地域とは異なるオンタオ崇拝を形成してきた。そのオンタオ儀礼でシン村オンタオ版画を使用してきた背景には、オンタオ版画に込めた切実な五穀豊穡と家畜家禽繁殖の願いと、豊かな暮らしへの願望があったと思われる。そして他のオンタオ版画と異なる大きな特徴は、シン村オンタオ版画がフエ地域で製作されたことであり、フエの

阮王朝の影響を強く受けていたことである。それは版画のなかだけでなく、人々の暮らしにも深く関与していたことを伝えている。

シン村の版画製作と製作者、儀礼版画の調査はまだ途中にある。今後の課題として、儀礼版画製作における宗教者の関与、またシン村の生業としての版画業、儀礼版画に対する製作者の意識などシン村の社会や経済、人々の生活と関連づけた調査を行っていききたい。特に、伝統的版画業の一番大切な作業を版画業と関わりのないトーチャムが担ってきたことに注目して、儀礼版画の製作と生業としての版画製作、村の人々の意識についても今後さらに詳しく調査を行っていく予定である。また、オンタオ版画を使用する人々への調査も行う予定である。

謝辞

本稿は2014年度非文字資料研究センター奨励研究の研究費支援を受け、修士論文の一部を再構成し、2014年の追加調査により作成したものである。ベトナム調査にあたり、以下の方々にご指導・ご助言・ご協力を賜りました。故・西村昌也先生（元大阪大学招聘研究員）、大西和彦先生（ベトナム社会科学アカデミー宗教研究院）、末成道男先生（元東京大学）、Nguyễn Quang Trung Tiến 先生（フエ科学大学）、Huỳnh Đình Kết 先生（フエ民間文化博物館）、Nguyễn Hữu Thông 先生（ベトナム芸術文化院）、Trần Đại Vinh 先生（フエ大学）、Trần Đức Anh Sơn 先生（ダナン市社会経済発展研究院）、Nguyễn Văn Quảng 氏（フエ科学大学）、Phân Thị Thanh Vân 氏（故都フエ遺跡保存センター）に心よりお礼を申し上げます。また、聞き取り調査に協力していただいたベトナムの皆さまにも改めてお礼を申し上げます。

注

- (1) 民間版画にはドンホー版画のほかにハノイのハンション（Hàng Trống）通りにあるハンション版画がある。ハンション版画はドンホー版画に較べると色彩の少ないモノトーンが主流の版画である（岩井1997：72）。
- (2) Trần Quốc Vượng, Đỗ Thị Hào 2014：117。
- (3) 煮炊きに使用する三つのレンガ、または粘土で作られた三つの支脚。
- (4) 資料は未刊行であり、フィン・ディン・ケット氏より提供いただいた。
- (5) マーは、おもに葬儀や祖先を祭る儀礼で燃やされる。お金や服、携帯電話、車など様々な種類があり、ベトナムの紙銭については芹澤が韓国・沖縄と比較して研究している（芹澤2013）。
- (6) それぞれの地域の特徴については「ベトナム・フエ地域のオンタオ崇拝」（鍋田2015）に整理している。
- (7) 會同廟では、様々な神を一つの廟で祀っている。
- (8) オンタオのほかに、土地龍神、五方河伯、水官、先師、土公、住宅等の神が祀られている。
- (9) 『欽定大南會典事例』卷93 禮部、會同廟、『大南一統志』京師、群廟、會同廟に記されている。
- (10) 『大南一統志』承天府・祠廟に記された原文：関公祠 在縣地靈社。本朝明命十二年重修、賜銅匾額。嗣德三年賜木匾金湘。
- (11) 2013年チャン・ダイ・ヴィン氏のご教示による。
- (12) 『灶君経』『竈王真経』に記された原文：十二月二十四日子皆、上奏 天曹、世人宜前於二十三日、虔誠齊供敬送、至三十日回位、各宜虔誠迎接
- (13) チャンオンは男性の本命神を祀る祭壇である。詳しくは、鍋田2015：51-52で説明している。
- (14) 1553（1555）年、楊文安により編纂されたフエ地域の地誌。現存する『烏州近録』は加筆されている。
- (15) ベトナム独自の漢字

- (16) 「三司」とは都司（軍事）、承司（官吏の勤務評定）、憲司（訴訟）を司る官庁をいう（大西 2003：124-126）
- (17) 『烏州近録』巻之五 原文：名藍 崇化寺 思榮縣頼恩社。前遶靈江、後榮大澤。懷才江抱於乾方、崇福碑屹於坎位。神像穹窿、僊宮巍嶽。節旦習儀、則三司及衛所衙門衛所等官偕至、衣冠禮樂翕集如雲。又一祈一禱、隨感隨應、化州之名寺也。
- (18) 10戸を1甲とする末端の行政単位。
- (19) 2013年 グエン・ヒュウ・トン氏のご教示による。
- (20) 2013年 フィン・ディン・ケット氏のご教示による。
- (21) 2013年 グエン・ヒュウ・トン氏のご教示による。
- (22) シン村版画業の原料を含めた製作工程についてはグエン・ヒュウ・トンとフィン・ディン・ケットが詳細にまとめている（Nguyễn Hữu Thông 1994：156-161；Huỳnh Đình Kết 2001：64-83）。シン村の伝統的版画業については民具マンスリーで紹介している。
- (23) 2013年 グエン・ヒュウ・トン氏のご教示による。
- (24) 2013年 フィン・ディン・ケット氏のご教示による。
- (25) 『大南一統志』京師。
- (26) 2013年 フィン・ディン・ケット氏のご教示による。
- (27) 2013年 グエン・ヒュウ・トン氏のご教示による。
- (28) グエン・ドン・チーの『ベトナム昔話の宝庫』『オンタオの昔話』のなかの「山西人の話」（Nguyễn Đông Chi 1974：224-225）、スタンが収集したベトナムの竈神説話（Stein, R. A. 1970：1287）、ベトナム・ムオン族の竈神の話（Bùi Thiện 1978：255-257）。
- (29) 『大南一統志』京師、官署。
- (30) 菅野は、アンリ・オジェの業績について次のように評価している。それは、版画集が漢喃の画賛を付し、みずから仏語による解釈、紹介の労を惜しまなかったことである。この業績によって、歴史、民俗学、社会誌、美術史のみならず、漢字、チューノム研究にとっても欠かすことのできない、まさに多重の価値を内蔵する資料体となったと記している（菅野 2004：261）。
- (31) 2013年 フェの民間信仰の研究者チャン・ダイ・ヴィン（Trần Đại Vinh）氏のご教示による。

参考文献

（日本語）

- 岩井美佐紀 1997「ドンホー版画」『月刊しにか』8月号 大修館書店：72-73
- 大西和彦 2003「トゥアティエン——フェ省タインフォック村諸族所蔵族譜・家譜中の道教関係記事初探」『ベトナムの社会と文化』第4号 風響社：110-139
- 大西和彦 2009「数の概念——微妙な奇数と安心の偶数——」『Vina Boo』11月 Vol. 30：14
- 川上崇 2001「ベトナム社会主義革命のなかの手工芸村 紅河デルタにおける木版印刷業の歴史的展開」『ベトナムの社会と文化』第3号 風響社：49-79
- グエン・ヴァン・ダン（Nguyễn Văn Đăng）（新江利彦・西村昌也訳） 2012「1306年から1945年までににおけるトゥアティエン・フェの手工芸」『周縁の文化交渉学シリーズ7 フェ地域の歴史と文化——周辺集落と外からの視点』関西大学文化交渉学教育研究拠点：481-495
- 菅野賢治 2004「失われた自己イメージの回復——アンリ・オジェ編纂によるヴィエトナム版画集（1908-1909）の復刻——」『人文研紀要』第52号 中央大学人文科学研究所：245-273
- 田所政江 2000『くらしの造形11 祈りと願いのコスモロジー——ベトナムの民間画——』武蔵野美術大学美術館・図書館
- 田所政江 2008『ベトナム民間版画』里文出版
- 芹澤知広 2013「ベトナム・ハノイの紙銭——比較研の試み——」『国際常民文化研究叢書』3号 神奈川大

学：133-149

中川武 早稲田大学アジア建築研究室 1996「ベトナムの都市と建築 2 フェ」『SD スペースデザインベトナム建築大博覧』第 378 号 鹿島出版会：59-78

鍋田尚子 2014「フェ地域のオンタオをめぐる物質文化——オンタオ神像製作と儀礼——」『東南アジア考古学』34 号：59-71

鍋田尚子 2015「ベトナム・フェ地域のオンタオ崇拜」『沖縄国際大学地域文化論叢』第 16 号：37-64

三上陵 2014「ベトナムの民間版画——フェ近郊シン村の紙馬を中心に」『人文学報』No. 493 中国文学研究室 首都大東京 人文科学研究科：23-37

綿貫志野・中川武ほか 2006「南郊壇の配置計画について I ヴィエトナム・フェ・阮朝王宮の復原的研究（その 123）」『日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』：377-380

(ベトナム語)

Bùi Thiện 1978 “Sự Tích Ba Hòn Nục”, *Truyện Cổ Mường*. NXB Văn Hóa Dân Tộc Hà Nội: 255-257

Henri Oger 2009 (1909) *Technique du peuple annamite = Mechanics and crafts of the Annamites = Kỹ thuật của người An Nam* bản dịch tiếng Anh, Sheppard Ferguson; bản dịch tiếng Việt, Trần Đình Bình; 1, 2, 3. EFEO. <BB03963891>, NXB Hà Nội: Thế Giới

Huỳnh Đình Kết 2001 *Tranh Làng Sinh Trong Đời Sống Tín Ngưỡng Dân Gian Huế*, NXB Huế.

Nguyễn Bá Vân: Chu Quang Trứ 1984 *Tranh Dân Gian Việt Nam*, NXB Văn Hóa.

Nguyễn Đồng Chi 1974 *Kho Tang Truyện Cổ Tích Việt Nam Tập I* NXB Khoa Học Xã Hội Hà Nội

Nguyễn Hữu Thông 1994 “Làng Sinh và nghề làm tranh” Huế nghề và làng nghề thủ công truyền thống, NXB Thuận Hóa, pp152-164

Trần Đại Vinh 1995 *Tín Ngưỡng Dân Gian Huế*, NXB Giáo Dục.

Trần Quốc Vượng, Đỗ Thị Hào 2014 *Nghề Thủ công truyền thống Việt Nam và các vị tổ nghề*, NXB Văn hóa thông tin, Hà Nội.

Trần Thị Hồng Hiền 1990 Luận văn tốt nghiệp *Tranh Làng Sinh* Trường Đại học tổng hợp Huế Khoa Lịch Sử.

Stein, R. A 1970 “La legend du foyer dans le monde chinois”, *Echanges et communications*, Mouton the Hague, Paris, pp 1280-1305

(漢文)

『烏州近録』楊文安、明朝景曆 6 年（1553）、漢喃研究院、NXB Khoa Học xã hội, Hà Nội 1997

『大南一統志』阮朝官撰、嗣德 35 年（1882）

『欽定大南會典事例』卷 93. 阮朝内閣刊本、嗣德 8 年（1885）

「寵王真經」『灶君經』維新 3 年（1909）